



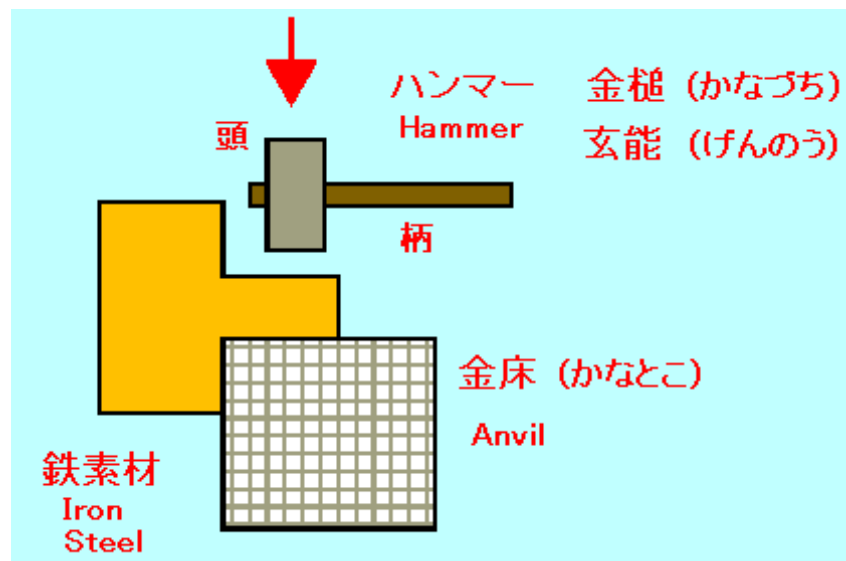
ハンマーの歴史 1

一年余りにわたって綴って来ましたが、鍛冶屋の目で見えた郷土の歴史シリーズは一休みさせていただき、鍛冶屋とハンマー（金槌：かなづち）の関わりに迫ってみたいと思います。

最も原始的で世界中で使われている鍛冶道具のハンマーが今回のテーマです。金床の上に鉄を乗せ叩く道具で、目的の品物を作り出していきます。ハンマーと言う呼び名が鍛冶屋では一般的ですが、大工さんは金槌、玄能、と呼びます。木製のものは槌（つち）やカケヤと呼ばれ、現在ではプラスチック製や銅製のものも使われています。文化が進み、新しい商品が開発されるとその用途向けのハンマーが作られます。そのため形や重さが大きく異なり数グラムから、10kg以上のものまであります。

鉄の需要量の増加に伴い、鉄の生産・加工方法も進歩してきました。特に産業革命（1760年代 - イギリス）により大きく変化します。動力の進歩は手動のハンマーから水力、蒸気力、へと発展進化し現在になっています。将来はどうなっていくのでしょうか？

今回はハンマーの変遷を数回のシリーズでお届けする計画です。ご意見やご感想を何なりとお寄せください。



参考図書

クルップ	井野川 潔		けやき書房	1987年
鉄の歴史	ヨハンゼン 著	三谷 耕作 訳	慶応書房	1943年
道具と機械の本	マコーレイ 著	歌崎 秀史 訳	岩波書店	1990年
古代人		リリーフシステム 訳	同朋舎	1991年
鍛造 - 歴史と共に -	中日本鍛造協同組合			2000年

会社の住所表示が10月20日より変わります。
新しい表示は以下です。
お手数ですが住所録をご訂正ください。

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/>
e-mail ryou@memenet.or.jp